

国際郵便と国際送金について

国際文化学部国際文化学科 3年

17011042 千葉明里

1. 初めに

曲阜師範大学では来週から中間試験が始まる。つまり留學生活の4分の1が終わるということである。留學生活が始まってから2か月が経ち、中国での生活や授業にも慣れ始めてきた。4月の清明節が過ぎて春の訪れを感じていたが、それから1か月経ち労働節を迎えた中国では気温が急激にあがり、夏を感じる日々である。同じアジアの国でも文化の違いだけでなく気候の差も大きくあることにとても驚いた。

今回のレポートでは前回のレポートからさらに1か月生活して感じた曲阜の気候と国際郵便と国際送金について記す。

2. 曲阜の気候

2月末に曲阜師範大学に来てから3月・4月は気温が10度前後であった。そのため毎日冬服を着てコートを着るほど気温が低い日も多く、冷たい風が吹いていた。さらに、日中に雨が降ることもなく、この2か月間で雨が降ったのは2回程度であった。しかし、5月になった途端に気温が25度近くまで上がり半袖の服が必要になった。

留學する場合、夏服を多く持ってくる必要はないが寒暖差が非常に激しいため2・3着薄手の服を持っていくことを勧める。大学付近には服を売っている店も多くあり、インターネットを利用すれば自分の好みの服を見つけることもできるため、夏服を買うことに関して困ることはないが、夏服を探しに行くまでの間やインターネットで購入してから手元に届くまでの間着ることができ服を持っていく必要がある。

3. 国際郵便

私は日本の実家宛に国際送金をしてもらうための書類を送るために国際郵便を使用した。大学の東門を出ると中国郵便という郵便局がある。ここでは郵便を送る以外にもお金の両替、外貨への換金ができる。しかし前回のレポートにも記した通り、外国人では利用することができず、取り扱っていない外貨もある。

この郵便局から日本への国際郵便を利用しようとしたが、「中国を出た後どこに行くかわからず追跡番号などもないため確実に日本につくかどうかわからない」と言われた。さらに「もし確実に日本に届けたいのであればここではなく別の郵便局へ行ってほしい」と言われたため、私は大学から歩いて30分ほど離れた孔子郵便局と呼ばれる別の中国郵便を利用した。

国際郵便には2種類あり、1週間から10日ほどでつくものと1か月以上かかるものがあり、重さや大きさによるが送料が100元(1元約18円)ほど異なる。私は早く日本に送りたいと思ったため前者を利用した。



日本の宅急便と同じように送り主の名前・電話番号・住所と受取人の名前・住所・連絡先を書き、郵便局の人に郵便物と紙を渡して手続きをします。私は書類2枚とその書類を入れるクリアファイルを送り、送料は約200元(日本円で約3,600円)であった。実際に10日ほどで実家に送ることができた。



そして、両親から夏服や日焼け止めクリームなどの仕送りの荷物が届いた。こちらも同じように10日ほどでつくものと1か月かかるものがある。しかし、国際便ではアルコールが含まれるものは規制があり送ることができない場合があるため

化粧品や日焼け止めクリームなどを国際便で送る場合は注意が必要である。

この郵便物が曲阜師範大学につくと送り状の受取人欄に書いてある連絡先にSMSで通知が来る。部屋や宿舎棟まで届けられるのではなく大学内にある荷物の収集場所に届けられるため、そこまで取りに行かなくてはならない。淘宝などのインターネットで購入した商品も同じように収集場所に届けられるため取りに行く必要がある。送料は400元から450元程度(日本円で7,000円から8,000円)である。

4. 国際送金

国際送金をすることも簡単ではない。まず日本から国際送金をする際金額や銀行によって異なるが、送金目的を聞かれることや、留学している場合は在籍している日本の大学の学生証・留学先の大学の学生証・入学許可証・派遣証など留学していることを表す照明証が必要である。学生証の有効期限が切れている場合は在学証明書などの提出を求められることがある。そして、送金先の中国の銀行名・支店名・SWIFTコード・名義人名・口座番号などの英語名が必要である。銀行名や口座番号はキャッシュカードに記されているが、支店名・SWIFTコードは記されていないため直接銀行まで行き調べてもらうしかない。さらに、銀行員全員がこの情報を知っているわけではなく、調べられるわけでもないため担当の人がいない日は別日に再度尋ねに行かなくてはならない。

日本からは中国元で送金することが難しいため、まずは米ドルで中国の銀行に送金し、それを人民元に換金してお金を受け取るというシステムになっている。さらに大学内にあるような規模の小さい銀行では、たとえ自分が口座を作った支店であっても受け取ることが

できず、少し離れた大きな支店でしか受け取ることはできないと言われた。

そのため、国際送金を利用する場合は出国前に留学が証明できる書類や学生証などのコピーを用意しておき、中国で口座を作った後に送金してくれる保護者などに銀行名や口座番号などをあらかじめ伝えておく必要がある。

5. 最後に

日本では平成が終わり令和を迎えた。日本人にとって非常に貴重な日であったが、中国でも日本の元号が変わったことを知っている人が多くいた。現在の中国では使われていないが元号は中国発祥のものとしても有名であり、未だに使われている日本の元号に興味を示す人が多い。しかし一方で元号は日本の文化の一つであると考えている中国人もいる。

今まで日本文化は着物などの日本独自の服装や、「わびさび」などの日本の風習や習慣などを指す言葉と認識していたが、元号を日本文化ととらえたことがなかったためとても驚いた。日本人でないからこそ元号を文化ととらえることができるのだと思い、とても興味深く感じた出来事であった。

留学では語学の勉強だけでなく他文化圏から見た日本を勉強することができる。平成の終わりと令和の始まりを日本で迎えることができなかったことが寂しく思うが、日本にいなかったからこそできた貴重な体験であった。